

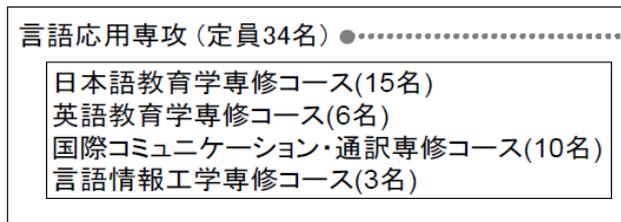
教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	東京外国語大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	国際基準に基づく先端的言語教育者養成		
主たる研究科・専攻名	地域文化研究科言語応用専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名, 研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 芝野 耕司		
<p>[教育プログラムの概要] 言語応用専攻では、ヨーロッパの大学がボローニャプロセスと呼ばれるヨーロッパの大学改革の中で採用するヨーロッパ共通言語教育参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment, CEFR) に基づき、ICTを活用できる言語教育者養成の養成を目指し、教育プログラム改革を進めている。</p> <p>CEFRでは、複言語主義・複文化主義 (Plurilingualism and pluriculturalism) に基づき、コミュニケーション手段として言語が“できる”ための教育することを目的とし、汎言語的な枠組みを規定している。また、CEFRでは、多様な言語・文化を背景とする人々の共存・共生を前提とする現代社会において不可欠な言語コミュニケーション能力の涵養を目的とする。また、本学で平成17年度～19年度に実施した現代GP「e-日本語」で、ゼロから大学入学レベルまでの900時間分の日本語教育コンテンツを整備するとともに、言語教育に特化しCEFR対応を目指し、AJAXなどの最先端技術を用いたインターネットでのLL機能を含む独自e-Learningシステムを開発した。また、この現代GPの成果の一環として、506ページのblended learningに基づく指導書を出版した。</p> <p>このプログラムではCEFRに基づき、言語応用専攻全体の基礎科目の充実、個別言語教育の強化及びICTを利用した実習を通じて、国内外で高度で先端的な言語教育の実践能力を備えた教員・研究者の養成を行う。</p> <p>[言語応用専攻の教育の特色] 言語応用専攻は、高度職業人養成を目指し、学部から5年一貫制で修士号を与える特化コースと対応する「日本語教育学専修コース」、「英語教育学専修コース」、「言語情報工学専修コース」及び「国際コミュニケーション・通訳専修コース」の四つのコースからなる。専修コースの特色は、基盤となる学問分野(ディシプリン)をもとに、各専修コース固有の講義に「臨地実習」を課すことによって、世界で活躍可能な高度な日本語教員、英語教員、言語が堪能な情報技術者、及び高度な通訳者を養成することにある。</p> <p>[平成20年度からの改革の実施] 独自のe-LearningシステムJPLANG及び「直接法による日本語指導—e-learningを取り入れた統合型学習モデルの構築に向けて—」を、日本語教育学専修コースにおいて既に開講されている「日本語教育学臨地実習」に取り入れる。</p> <p>平成20年度4月の大学院入学時オリエンテーションでは、博士前期課程学生についても、アメリカ応用言語学会 (American Association for Applied Linguistics, AAAL) をはじめ関連国際学会で発表を目指すべく研究にあたるよう奨励した。本プログラムでは国際学会発表を支援し、平成20年度1割、21年度2割、22年度3割の博士前期課程学生の国際学会発表を目指す。</p> <p>本プログラムで欧米でのボローニャプロセス・CEFR、中国の孔子学院プロジェクト及び韓国の朝鮮語プログラムなどの世界の言語教育改革プログラムを調査し、本プログラム実施中の教育改革のみならず、終了後、本学及び日本の言語教育改革に資するための定例学内研究会を実施し、この研究会に博士前期課程学生を参加させることによって、教育研究改革に関するOJT (On the Job Training) を実施する。</p> <p>[平成21年度からの改革の実施] 本学既存のテレビ会議システムを利用しつつ、平成20年度に本支援プログラムにより導入した10コース以上同時配信可能なインターネット(Web)会議システムを利用することによって「日本語教育学臨地実習」の拡充を図る。</p> <p>本学大学院生により実施・運営され、広く学外者を対象に夏季に集中的に行われる外国語講座「サマースクール」(7言語約50講座、平成19年度参加者実績約400名)への支援の強化を行う。</p> <p>[平成22年度からの改革に向けて] 言語情報工学専修コースについて、言語応用専攻での位置づけの再考に着手する。具体的には、他の三つの専修コースの基礎的学問領域を担う「言語応用学専修コース」(仮称)と改め、応用言語学、教育学及び情報学・教育工学の三つの基礎科目群の充実と、言語応用教育の高度化を目指すことを検討する。</p>			

東京外国語大学：国際基準に基づく先端的语言教育者養成

履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

①言語応用専攻の組織体制図と教育目標を示す(図1)。



高度職業人養成

本専攻は、図に示す四つのコースから構成され、言語や文化についての幅広い教養を背景に、諸言語を運用する実践的知識を学び技法を磨いて、言語と地域に関わる専門的な業務に携わる高度職業人を養成するための専攻である。図1の括弧内は入学定員を示す。

図1

②本申請の教育課程と研究指導の枠組みを図2に示す(6頁の教育課程も参照)。

言語応用専攻全体で共通基礎科目群(応用言語学, 教育学及び情報学・教育工学)の充実を図る。併せて教員は、CEFR枠組みの調査・研究を通じて言語教育の国際基準に沿った個別言語教育の枠組みを見直し、教育課程の編成に還元すると共に博士前期課程学生への研究指導を強化する。

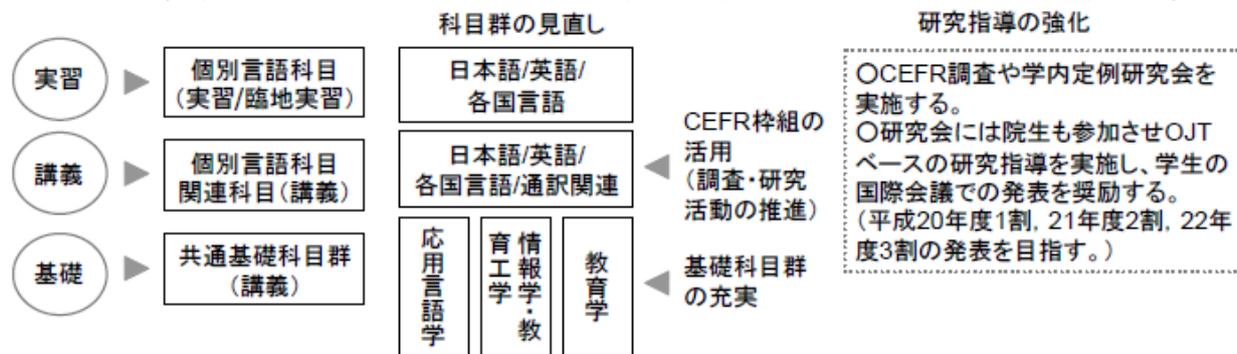


図2

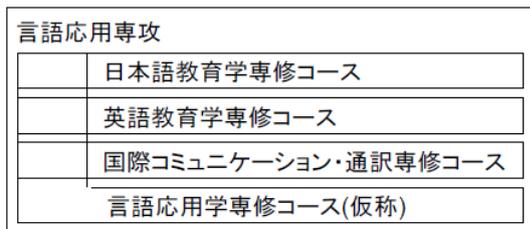
③本申請の教育課程における実習機会の拡充の施策を図3に示す。

教育課程における実習関連科目を充実させる。10コース以上同時配信可能なインターネット(Web)会議システムの利用及び、e-Learningシステム上でのWeb会議機能の実現を進め臨地実習の拡充を図る。また、学内実習機会の拡充としてサマースクールへの支援を実施する。



図3

④言語応用専攻の体制を検討する(図4)。



言語情報工学専修コースについて、言語応用専攻での位置づけの再考に着手する。具体的には、他の三つの専修コースの基礎的学問領域を担う「言語応用学専修コース」(仮称)と改め、応用言語学, 教育学及び情報学・教育工学の三つの基礎科目群の充実と、言語応用教育の高度化を目指すことを検討する。

図4

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、教員組織が充実しており、活発なファカルティ・ディベロップメントが実施されている点は評価できる。

教育プログラムについては、高度で先端的な言語教育の実践能力を備えた教員・研究者を養成するため、CEFR（ヨーロッパ共通言語教育参照枠）に基づいた教育課程の再編が計画され、e-learningシステムを利用した臨地実習の拡充がなされる点等は、従来の教育取組の実績からみても実現性が高いと評価できる。また、教育課程の再編を当該専攻内の専修コースの改組に結び付けており、本教育プログラムの恒常的展開も期待できる。